

<基本情報>

所在地：宇検村

年齢：63歳（H27.1就農）

<経営概要>

品目：露地果樹

面積：たんかん 230～240本、

さとうきび 約10a



たんかん

<就農のきっかけ>

就農前は関西で働いていたが、45歳でUターンし宇検村に帰って来た。帰村後は親子山村留学など地域おこしを行っており、その一環で農業部会を設立し収益を上げようと思い、たんかん栽培を始めた。

地域の荒廃農地を整備し、たんかんを新植し始めたところ、止められなくなり、平成27年1月に就農した。

① 就農から現在までの状況

<就農時>

- ・この地区は、昔からさとうきびやたんかん栽培が行われているところである。宇検のたんかんは、潮風に当たりミネラル豊富で美味しいとの評判であったことから、高齢で作業ができない農家の畑や、カミキリムシの被害で耕作放棄されていた畑を借地するなどして栽培を始めた。
- ・この地区のたんかん栽培の植栽数は、多い人で70～80本だが、収益性を考え200～300本新植することとした。
- ・農機具は、トラクターと耕運機を中古で購入し、スピードスプレーヤーは宇検村から必要に応じて借りている。
- ・借り入れた農地の借地料は、たんかんの現物で納めている。

<現在>

- ・年4回、開催されるJA主催の栽培講習会や県の普及指導員による講習会に参加して、栽培技術の向上を図っている。
- ・農薬散布は共同防除を行い、魚粉（瀬戸内町産）を混ぜた肥料を使うなど、たんかんの糖度を上げる工夫をしている。
- ・就農当初は栽培の基本が分からず、収量も上がらなかったが、現在は栽培技術が向上したことと樹体が成長したことから収量も上がっている。
- ・昨年は7割が秀品で、台風の影響が少なかったこともあるが、栽培技術の向上を実感している。最近では、地区の耕作放棄地もなくなり、借り受ける農地がほぼ無い状態である。



たんかんのほ場

② これまで苦労した点

- ・資金面で苦労した。鳥獣被害対策のために廃材等を利用して対応を行っており、防鳥ネットの設置に村からの補助金が増額されるとありがたい。また、防風林を植えるにも資金が必要である。
- ・たんかん栽培は幼木を新植したことから、収穫できるまで4～5年かかることになり、その間は収入がなく、さとうきびの販売代金がたんかんの運転資金となっていた。

③ 就農して良かった点

- ・収益ではなく収穫が喜び。そのため、人より良い物を作ろうと頑張れる。また、地区には結（共同作業）の習慣があり、収穫時には近所の人自主的に手伝いに来てくれる。

④ 今後の目標

- ・技術を向上させ収量を上げていく。また、幼木が成木になり、収量が増えたらネット販売をやりたい。
- ・1～2年後には、「たんかん祭り」を開催したい。
- ・自信を持って販売できるように品質の良いものを作っていきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・農業に関する専門用語も分からなかったので、事前に勉強しておくこと。
- ・栽培技術は、就農前に習得しておくこと。
- ・資金繰りについても考えておくこと。

＜基本情報＞

所在地：瀬戸内町
年齢：36歳（H31.4就農）

＜経営概要＞

品目：露地果樹・施設果樹
面積：たんかん、マンゴー、
ドラゴンフルーツ等 120a



ドラゴンフルーツ

＜就農のきっかけ＞

福井県生まれ。東京のレストランで調理師をしていたが、農業に興味を持ち、東京での就農相談会に参加した。その際、鹿児島県のブースでトロピカルフルーツに興味を持ち相談したところ、県立農業大学校を紹介され入学。卒業後に、同校の紹介で瀬戸内町へ移住し、平成31年4月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・平成31年4月、新規就農者助成金を活用して就農した。
- ・たんかん成園18aの譲渡を受けるとともに町のサポートハウス制度を活用してパッションフルーツを植栽し経営を開始した。
- ・たんかん幼木を40a、津之輝30aを新植、その後に奄美振興交付金を活用してビニールハウスを整備し、マンゴー9aを植栽した。

＜現在＞

- ・ドラゴンフルーツやスターフルーツ（コンテナ栽培でマンゴーの空きスペースを活用）を新たに導入。また、ふるさと納税への出品やネット販売を中心に販路を開拓するなど、経営の安定化を目指している。



たんかんのほ場

② これまで苦労した点

- ・地域内に優良農地が少ないこと。当初、農地の貸し手も少なくハウス用農地の確保に苦労した。また、消費地が遠いことから、予め販路のことを考えておく必要があった。

③ 就農して良かった点

- ・手間を掛けた分は対価として返ってくる。
- ・自然災害などのリスクが多く大変なこともあるが、お客様からの「ありがとう、美味しかった！」の声、何よりも励みとなるなど、素晴らしい仕事だと感じている。自分が育てたフルーツを喜んでもらえるのが最高にハッピーである。

④ 今後の目標

- ・輸送コストの高騰等もあり、消費者の果樹に対するこれからの需要動向が気になるが、コスト削減と労働時間短縮のため、スマート農業にも取り組みたい。みどりの食料システム戦略を視野に入れ、環境に配慮した持続可能な循環型農業を目指しており、お客様に満足してもらえる魅力的なフルーツを安定的に届けることが目標である。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・農業は経営が安定しにくく苦労も多いが、捉え方、やり方次第で可能性が広がるので、とても魅力的な仕事である。
- ・令和3年に世界自然遺産に登録された瀬戸内町は、技術習得の研修制度やサポートハウス制度、農地中間管理機構による農地の斡旋など、新規就農者への支援制度が充実しています。ぜひ一緒に瀬戸内町の農業を盛り上げていきませんか！お待ちしております！

＜基本情報＞

所在地：龍郷町

年齢：37歳（H31.4就農）

＜経営概要＞

品目：肉用牛（繁殖）

経営規模：繁殖雌牛 17頭

子牛 9頭



子牛

＜就農のきっかけ＞

就農以前の勤務が長時間労働であったこと。

また、妻の出産と親族の入院等が重なったことから、農業であれば時間を調整し対応ができると考え、平成31年4月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・当初は町内の大規模農家で1年半研修を受けた。
- ・父が畜産農家であったことから畜舎は親から譲り受け、機械は親から借りている。

＜現在＞

- ・就農後に日本装蹄協会の認定牛削蹄師を取得し、大島地区北部の削蹄を3名の削蹄師で請け負っている。
- ・現在、県の畜産基盤強化事業を活用して、新たな畜舎を建設中である。
- ・牛の姿勢改善に、県大島支庁と協力して現在、実践中である。



牛舎

② これまで苦労した点

- ・自分が思うような牛に仕上がらなかった時は悩んだ。
- ・腰のケガをしたことでヘルニアを患い、今でも削蹄作業時には痛みがあり苦労している。
- ・牛の肩つきが悪かったが、飼槽の高さを変えることで改善を図ることができた。

③ 就農して良かった点

- ・自分のペースで時間を使えるようになったこと。
- ・自分で頑張った分は成果として現れること。

④ 今後の目標

- ・ICTによる発情検知の試験を行い、効果を実感した。スマート農業に関心があることから、今後は活用していきたいと思っている。
- ・年1産を目標に分べん間隔の短縮により回転率を上げ、市場平均価格以上での出荷を目指す。
- ・輸出に興味を持っているので勉強して取り組んでいきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・畜産で就農するに当たっては、土地の確保が一番肝心である。資金等も含めて、しっかり準備することを勧める。

＜基本情報＞

所在地：喜界町
年 齢：30歳（H31.4就農）



とうがらし

＜経営概要＞

品目：露地野菜
面積：かぼちゃ 1.5ha、白ごま 20a、
スイートコーン 20a、
たんかん 10a、とうがらし 10a

＜就農のきっかけ＞

喜界島の高校を卒業後、埼玉県内の建設会社に就職。親の健康上の都合により帰島し、土地改良区で水管理を行っていたが、仕事のやりがいと自由な時間が欲しくなり、平成31年4月に就農した。

① 就農から現在までの状況

＜就農時＞

- ・喜界町の農業後継者育成事業（1年間：交付金月額10万円）を活用。その研修品目でかぼちゃを選択し技術を習得した。その後は、新規就農者助成金を活用した。
- ・就農当初は親の農機を借りるとともに、公庫の融資を受けて定植機や管理機等を購入した。
- ・農地については、農業委員会を通じた農地利用権設定により賃借した。

＜現在＞

- ・当初は、赤字経営であったが、現在は生活ができる程度の利益があり、年々経営が良くなっていると感じている。



トラクター

② これまで苦労した点

- ・就農当初の初期投資を準備することに苦労した。また、就農初年度は生産した農作物が病害虫の被害を受け収入がなく苦しかった。
- ・離島は台風災害が多いため、防風対策と緑肥を兼ねて野菜を囲むようにソルゴー等を栽培している。
- ・収穫時の労働力不足と経験の浅さから作業効率が上がらなかったこと。

③ 就農して良かった点

- ・自分の時間で仕事が進められ、子ども達との時間も比較的取れるようになったこと。

④ 今後の目標

- ・防除においては、様々な農薬を使用したことで経験値が向上したので、今後は費用対効果を考えて経営に活かしていきたい。
- ・かぼちゃの早期出荷に取り組み、価格が少しでも良い時期に出荷するなど経営戦略を考えたい。
- ・今後は人を雇用して、経営規模の拡大を図りたい。また、喜界島では果実の人気があるので、島の人たちが喜ぶ品目を手掛けて島に還元していきたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- ・事前に資金を準備することが重要である。農機具は中古の機械を利活用する方法もあるが、後で部品調達等で苦労するリスクがある。また、土地の確保が一番肝心なので、関係機関に相談するなど、準備をしっかりすること。
- ・1～2年収入がなくても生活できる資金を準備しておくことが望ましい。

<基本情報>

所在地：天城町
年 齢：38歳（R元.6就農）

<経営概要>

品目：施設園芸
面積：メロン 15.3a、さとうきび 20a、
パッションフルーツ 15.3a、
実エンドウ 2a



メロン

<就農のきっかけ>

横浜市で整体師として就労していたが、いつかは徳之島に帰郷したいと思っていた。帰郷時は、整体師の仕事も選択肢としていたが、親が農業を営んでおり、農地もあったことから、令和元年6月に就農した。

① 就農から現在までの状況

<就農時>

- 横浜市から帰郷し、天城町が運営する農業センター研修生として1年間の研修後、町の施設を借り受け、メロン、実エンドウ、パッションフルーツの栽培を開始した。

<現在>

- メロン、パッションフルーツに栽培のウェイトを徐々に置きながら施設の増設を行い規模拡大を図っている。
- 栽培回数を重ねるに従い、土づくりの重要性を認識するようになり、今は完熟堆肥等の有機物の投入に努めている。
- さとうきびの「はかま」や近隣の畜産農家から家畜排泄物を調達し、良質な堆肥を自家生産することを検討している。



ハウス内のメロン

② これまで苦労した点

- 就農直後は、資金繰りに苦労したが、徐々に収入は増えるようになった。
- 現在は、栽培について試行錯誤しながら、収穫物の品質向上に懸命に取り組んでいる。

③ 就農して良かった点

- 子供と過ごす時間が増えたこと。
- 島には仲間がいるので、仲間とともに地域興しへ参画できていることに充実感を感じる。

④ 今後の目標

- まずは、栽培面積の拡大を図り、インターネット等を活用したデジタル化による販売に取り組みたい。その上で、法人化して人を雇用できる経営を目指していく。
- 自分が栽培したメロンやパッションフルーツでジャムなどの加工品を製造・販売するなど、6次産業化に取り組み、島の特産物を増やしていくことにもチャレンジしたい。

⑤ 就農を目指す方へのアドバイス

- 就農してしばらくは、失敗を重ねて経験値を上げることが成功へつながる。「失敗は失敗ではなく大事な勉強の機会である」とのポジティブな思考が大事である。
- 就農当初に農業機械等の道具類は、投資だと思って思い切って揃えること。
- 資金繰りの補助のため、新規就農者助成金は受けるべき。